

## 市場の動向

### 【金利】

5月末は1.0%台半ばだった長期金利（10年国債利回り）は、6月末も1.0%台半ばとなりました。中旬にかけては、堅調な国債入札や、日銀が国債買い入れの減額に関して具体的な内容を示さなかったことを受けて、低下しました。下旬は、円安進行等を背景として日銀の利上げ観測が強まり、金利低下幅を縮小させ、月間では概ね横ばいとなりました。



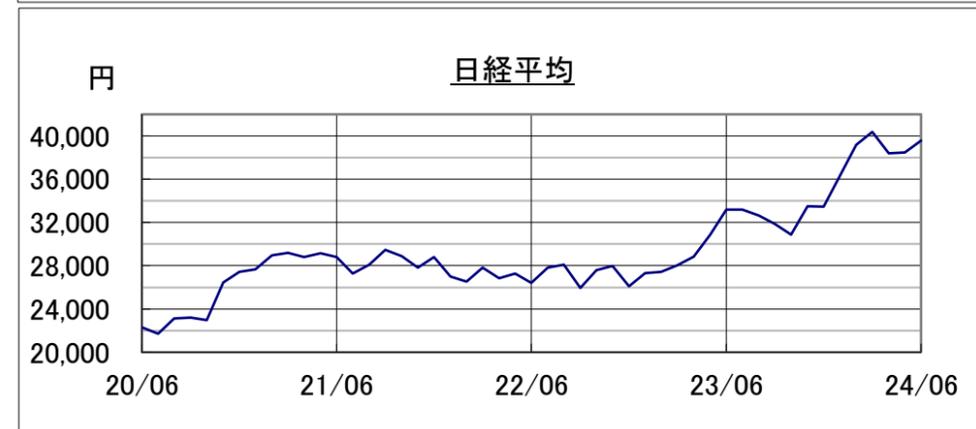
### 【外国為替】

5月末に156円台後半だったドル円は、6月末には161円台前半となりました。米国の軟調な経済指標などを受けて、一時は円高ドル安となる場面もありましたが、中旬以降、日本では緩和的な金融環境が続くとの見方や、米国における政治の不透明さを背景とした米金利上昇などから、円安ドル高となり、月間では円安ドル高となりました。5月末に169円台後半だったユーロ円は、6月末には172円台前半となりました。上旬は、欧州域内の政治的不確実性の高まりが嫌気され、円高ユーロ安となりました。中旬以降は、日本では緩和的な金融環境が続くとの見方や、欧州では以降の追加利下げを急がないとの見方から、円安ユーロ高となり、月間では円安ユーロ高となりました。



### 【日本株式】

5月末に38,487円だった日経平均は、6月末には39,358円と上昇しました。上旬は、概ね横ばいで推移しました。中旬以降は、欧州域内の政治的不確実性の高まりが嫌気され下落に転じたものの、円安進行が支えとなり上昇に転じ、月間では上昇となりました。



### 【外国株式】

5月末から6月末にかけて、米国市場ではNYダウは1.1%上昇、NASDAQは6.0%上昇しました。欧州市場ではFTSE100（英国）は1.3%下落、DAX（ドイツ）は1.4%下落しました。米国市場では、中旬にかけて、米物価指標の鈍化などを受けた利下げ期待の高まりや、一部の企業決算が好感され、上昇しました。下旬は、概ね横ばいで推移し、月間では上昇しました。欧州市場では、上旬は概ね横ばいで推移しましたが、中旬以降は、欧州域内の政治的不確実性の高まりや軟調な景気指標などが嫌気され下落に転じ、月間では下落となりました。



## お客様にご確認いただきたい事項

### ご負担いただく費用などについてご確認ください。

- お払込みいただいた保険料のうち、その一部はご契約時およびご契約後に下記の費用等にあてられ、それらを除いた金額が特別勘定で運用されます。
    - 保険契約の締結、維持に係る費用
    - 特別勘定の運用に係る費用
    - 死亡保障などに係る費用
- ※控除される費用は、契約年齢・性別・保険料払込期間等により、契約ごとに異なるとともに、保険期間中変動します。そのため、費用の合計額や計算方法を表示することはできませんので、ご了承ください。
- 契約日から10年以内、かつ保険料払込期間中に解約・減額された場合、解約日の積立金額から経過年数に応じた所定の金額（解約控除）を控除した金額が解約返戻金額となります。
    - ※上記期間経過後は、積立金額と解約返戻金額は同額となります。
    - ※保険料払込方法が一時払の場合は、解約控除は発生しません。

### 運用リスクについてご確認ください。

- 変額保険は、保険金額や解約返戻金額が特別勘定資産の運用実績に基づいて増減する仕組みの生命保険です。
- 特別勘定資産は、日本の株式や公社債および外国の株式や公社債などで運用されます。そのため、株価や公社債価格の変動リスク、為替の変動リスク、信用リスクなどの運用リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる解約返戻金額が払い込まれた保険料の合計額を下回ることがあり、損失が生じるおそれがあります。なお、各特別勘定の運用方法は、以下のとおりです。
  - 国際型 外国の株式を中心に一部日本の株式を組入れ運用します。
  - 株式型 日本の株式を中心に運用します。
  - 総合型 日本の公社債・外国の公社債を中心に、一部日本の株式および外国の株式を組入れ運用します。
- 各特別勘定への繰入割合や積立金の構成割合を変更した場合には、選択した特別勘定の種類によっては運用対象や運用リスクの種類・大きさが異なることとなりますので、ご注意ください。
- 変額保険の主契約の死亡・高度障害保険金は、契約時に定めた基本保険金額が最低保証されますが、解約返戻金は最低保証されません。